



会津医療センターから こんにちは！



【 10 】

循環器内科学講座
教授 鶴谷 善夫

『多職種連携し最適治療』

循 環器内科は、心臓や血管系の病気の診断・治療を行う診療科です。近年、医療では多職種連携が重要になっており、特に循環器内科は医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師、薬剤師、栄養士など多数の専門職が協力し合って患者の治療効果が最良になるよう努力しています。

例えば、入院患者一人一人の治療・看護の方針や、薬物治療、食事療法などで最適な結果が得られるよう、検討会を通じて熱心な議論を交わします。また、循環器内科ではカテーテル治療が飛躍的に進歩しております。その場合も治療前の多職種による検討会で十分に議論し、最適な方法を決定しています。

高齢化で増加している疾患に心房細動があります。心房細動になると、脳塞栓（そくせん）を起こして死亡したり、重篤な後遺症（寝たきりなど）を残したり、心不全（息切れやむくみ）になることもあります。最近では、中年や壮年期に心房細動になると高齢になってから認知機能に悪影響が出る可能性があることが指摘されています。心房細動の早期発見で重要なのは、動悸（どうき）や脈の不整などの自覚症状がある時の医療機関受診、検診や人間ドックの心電図検査での発見などが挙げられます。特に、中年・壮年期の男性は症状が乏しいことが多々あり注意が必要です。

心房細動はカテーテル治療で治癒する疾患です。最近、最も注目されているのは、冷凍バルーン（風船）による治療です。これは超低温にしたバルーンを使って、心房細動の発病と関連のある心臓内部を冷却して治療するものです。利点は、治療時間の大幅な短縮と、治癒率の向上です。当院では多数の患者様の治療実績があります。

どんな病気も早期発見、早期治療が重要で、心房細動も同じです。症状がある、検診などで発見された場合は医療機関を受診し必要に応じて専門の施設を紹介していただけてください。心房細動による脳塞栓症や心不全から生じる生命の危険や生活の質の低下、将来の認知機能の悪化を招かないために、心房細動になりにくい生活習慣と早期の適切な治療を受けられるよう心がけましょう。